



日本で効果的なプロモーションを
トルコ 11月26日(月)
メフメット・ヌリ・エルソイ
トルコ文化観光大臣

菊間副会長が表敬訪問し、「トルコへのツアーを増やすため、新しい観光素材を提供していただきたい」と要請。エルソイ大臣は「日本で効果的なプロモーションを行いたいので、企画提案をお願いします」と応えました。



投資活動には税制上の優遇制度
インドネシア 11月27日(火)
バスリ・プルナマ
モロタイ島経済特区開発会社
(CEZ Developer) 取締役

JATA本部を訪問し、「経済特区として開発が進むモロタイ島では、投資活動に対する税制上の優遇制度があります」と説明。越智事務局長は「旅行メディアと連携して島の魅力を旅行会社に紹介してください」とアドバイスしました。



ラグビーW杯でキャンペーン
アイルランド 12月3日(月)
ポール・ガヴァナ
駐日アイルランド大使(写真右)
アッシュリン・マクダーモット

アイルランド政府観光局中東・アジア局マーケティング・マネージャー(写真左)

JATA本部を訪問し、「ラグビーワールドカップ日本大会に向けて、BtoBとBtoCのキャンペーンを展開する」と説明。権田海外旅行推進部長は「美しい村30選のキルケニーを含めたファムツアーに協力していただきたい」と要請しました。



旅行会社に最新情報の提供を

ドバイ 12月11日(火)
イッサム・カズィム ドバイ政府観光局CEO(写真田川会長の左)

田川会長を訪れ、「宿泊施設やアトラクションの多様化を進めており、日本人旅行者を増やすキャンペーンを展開する」と表明。田川会長は「旅行会社に最新情報を提供し、BtoCプロモーションも実施してください」とアドバイスしました。



日本人クルーズ旅行者の増加を
ロイヤルカリビアンクルーズ社
12月12日(水)
アダム・ゴールドシュタイン
副会長(写真左)

ウッコ・メツォラ 副社長(写真右)

田川会長を訪問して、「日本人のクルーズ旅行者を増やしたい」と意欲を示したのに対し、田川会長は「クルーズの楽しみ方やツアーの多様性などをアピールすれば、クルーズ旅行者も増えるでしょう」と応じました。

要人往来

日本でラグビーワールドカップが開催される2019年を迎え、スポーツをテーマにした双方向交流への期待も高まる中、日本からの海外旅行需要にも熱い視線が集まります。



直行便就航へ
日本の航空会社と交渉
米国 10月17日(水)
フランク・クルッペンバッハー
グレーターオーランド空港公団会長

志村理事長を訪れ、「直行便の就航について日本の航空会社と交渉を行っている」と説明。志村理事長は「入国手続きがよりスムーズになれば、オーランド空港の利用者が増えるでしょう」と応じました。



日本からの渡航者数も増やしたい
モンテネグロ 11月1日(木)
スルジャン・ダルマノビッチ
モンテネグロ外務大臣

志村理事長を訪問し、「外国人観光客が毎年増加しており、日本からの渡航者数も増やしたい」と表明。志村理事長は「旅行業界や旅行者へのプロモーションを継続し、モンテネグロの認知度を高めてください」と応えました。



ラグビーW杯を機に観光交流の拡大を
南アフリカ 11月7日(水)
ハネリ・スラバー 南アフリカ観光局
リージョナル・ジェネラルマネージャー
(アジア/オーストラレーシア/中近東)

田川会長を訪れ、「ラグビーワールドカップ日本大会を機に、両国間の観光交流を拡大したい」と説明。田川会長は「南アフリカのイメージ向上へW杯は最高のチャンスですから、是非、活用してください」とアドバイスしました。



ダイビング以外にも
様々な素材を提供
フランス領ポリネシア 11月16日(金)
ニコール・プトー
フランス領ポリネシア観光大臣

志村理事長を訪問し、「ダイビングだけでなく、ホエールウォッチングや世界遺産、地元のライフスタイルなど様々な素材を提供したい」と表明。志村理事長は「旅行会社と協力して商品の多様化を進めてください」とアドバイス。